1 Bp- 2

シルバーピア住宅における高齢者の住生活と居住空間に関する研究
高齢者の生理的行動時間および外出の特性

○楊　麗娟、小川信子*、沖田富美子**
(*北海道女大、**日本女大)

[目的]　シルバーピア住宅における高齢者の住生活と居住空間の関係を把握するための基礎的なデーターとして、居住高齢者の生理的行動の時間および在宅・外出行動状況から住生活の特性を明らかにする。

[方法]　調査対象者は1987～1993年までに入居した東京都全域93地区のシルバーピア住宅である（1993年,基本調査,1823世帯対象,回収率83.7%,N=1525）。本報は同時期93地区より層化無作為抽出した18地区に行った詳細調査のデーターをもとに分析する（369世帯対象,回収率94.1%,N=336）。

[結果]　生理的行動の時間としては、睡眠（就寝、起床）と食事（朝、昼、夕食）行動に対する時間配分からとらえた結果、起床や就寝時間によって「規則タイプ」と「不規則タイプ」に分けられ、「規則タイプ」のものが約半数（47.0%）を占めている。特にこれらタイプと属性との関係では男性に「不規則タイプ」のものが多く、病弱者や無職のものは朝遅く起床し、夜早く就寝するものが多い。食事時間については、全般的に年齢の高いもの、身体状況の弱いもの、そして無職のものに朝食時間が遅く、夕食時間が早いものが多い。在宅・外出行動の状況をタイプ分けした結果、「外出タイプ」と「在宅タイプ」とに分かれるが、「外出タイプ」より「在宅タイプ」の方が多い。加齢や病弱にともない「在宅タイプ」が増加する傾向がある。タイプ別の外出特性をみると、両タイプとも外出頻度は「1日1回」とするものが最も多い。その主目的も買い物、通院、散歩が両タイプともに同じ傾向を示し、外出の時間帯は午前10～12時と午後2～4時がピーク時となっている。なお短時間（2時間内）の外出が7割と多く、うち1日1回のみ外出するものが4割以上を占めている。